

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	卒業研究		
英文授業科目名	Senior Thesis		
開講年度	2005年度	開講年次	4年次
開講学期	7、8学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	6
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	各教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
研究の進め方、解釈、考察やまとめかた、学問的バックグラウンドなど、広い意味で「研究とはどんなものか？」を会得するのが目標である。

【前もって履修しておくべき科目】
2年次終了審査に合格した後、更に1年以上修業していること。2年次までの全必修科目及び3年次の実験の単位を修得し、それを含めて卒業に必要な専門科目の75%以上修得していることが、卒業研究に進める条件である。ただし、1科目不足の場合は特例を設けることがある(但し110単位以上取得していること)。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
卒業研究に必要な原著論文や参考書を読むことがある。

電気通信大学 平成17年度シラバス

【授業内容とその進め方】

量子・物質工学科の講師以上の研究室に配属されて、1年間、卒業研究を行う。量子・物質工学科には物理、化学、生物、運動生理学の研究室がある。また、それぞれには理論の研究室、実験の研究室がある。配属後、指導教官から研究テーマをもらい研究を進める。卒業研究を進めるにあたって、研究室の先輩からいろいろ教わることも多い。研究結果は、まとまろうと、まとまるまいとに拘わらず、2月下旬の卒業研究発表会で発表せねばならない。2月初めにA4(1枚)の発表要旨原稿を提出すること。昼間研究室に來れない学生は、夜卒業研究できるよう考慮する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

卒業研究の成績評価では、研究結果はもちろんのこと、卒業研究にいかに関心に取り組んだかも重視する。

【オフィスアワー：授業相談】

【学生へのメッセージ】

小学校以来、諸君が学校で教わってきたことは、すべて先人が作り上げた学問体系であった。しかし、実社会に出たり大学院に進学したりすると、本に書いてないこと、まだ学問的、技術的に明らかでないことに数多くでくわす。これにどのように立ちむかってゆくのか、卒業研究を通して身をもって体験してもらう。学問的に道なき道を歩むプロセスを体験することにより、研究の楽しさ、厳しさをわかってほしい。なお、研究室の配属決定はおおむね次のプロセスで行う。12月上旬に学生に卒業研究ガイダンスを1日かけて行う。各研究室が7分程度で内容を紹介する(質問は受け付けない)。その時、配属希望研究室のアンケート用紙を配る。同じ日の夕方、学生-教官の懇親会を開く。12月中旬から下旬にかけて研究室を見学する(おおむね1研究室あたり2回程度見学のチャンスがある)。見学結果を参考にして1月上旬ころアンケートを提出してもらう。その結果を1月下旬に公開する。研究室の配属可能学生数に限度があるので、2月下旬に配属希望本調査を行い、3月中旬に配属研究室を仮決定し掲示で発表する。

【その他】